

～ “岩手発”トラウトサーモンによるイノベーション～

平成30年地域政策研究センター地域協働研究【ステージ I】採択課題

課題名：岩手県内水面漁業に関するバリュー・チェーン形成に向けた予備的考察

研究代表者：総合政策学部 准教授 新田義修

課題提案者：岩手県内水面水産技術センター 所長 高橋禎

研究メンバー：植田眞弘（研究・地域連携本部）・山本健（総合政策学部）

高橋禎・五十嵐和昭（岩手県）

技術キーワード：トラウトサーモン、三倍体、バリュー・チェーン、イノベーション

▼研究の概要（背景・目標）

- ・背景：内水面漁業の岩手県の位置づけ
⇒種苗供給県（成魚6位、稚魚4位）
⇒先行産地をキャッチアップする必要
- ・目標：後発産地としての岩手県内水面漁業の現状と課題を整理し、今後の方向性を示す。

▼研究の内容（方法・経過）

1. 調査対象：岩手県内水面養殖業者、協同組合、内水面水産技術センター
2. 調査内容：バリュー・チェーンに関わる項目（コスト、販売経路他）
3. 調査期間：2017年5月～2018年12月
4. 調査方法：主にフィールドワーク、統計分析他

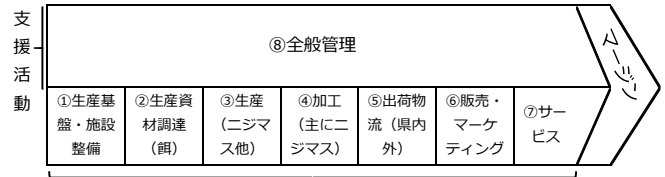
▼研究の成果（結論・考察）

1. 先行事例（静岡県・長野県・山梨県等）と比較して小規模・分散型の養殖経営
2. 主にニジマスを養殖している（中核的）大規模経営体 ⇒ ブランド確立
3. ブランドの確立には、生産技術の確立と稚魚の安定供給によるロット拡大（成魚）が必要

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 本研究で得られた成果として、ブランドの確立には、生産技術の確立と稚魚の供給によるロット拡大が必要であることが示唆された。
2. 今後は、産地としての岩手県の内水面バリュー・チェーン確立に向けて生産・販売技術のイノベーションを図るための研究を進めていく。
3. 残された課題として、他産地との競争関係について、さらなる検討を加える。
4. 調査実施にあたり、ご協力いただいた岩手県内の養殖業者の皆様にも全面的に協力していただいた。ここに記して感謝する（謝辞）。

図1 内水面養殖業のバリューチェーン・モデル



資料：澁谷往男「ケースに学ぶ」『戦略的農業経営』pp.139.
(2009)を参考にして作成。元資料はM.E.ポーターの「バリュー・チェーンモデル」を活用している。

表 岩手県内水面養殖業のバリューチェーンにおける主活動と支援活動

バリューチェーン	主活動						
	①生産基盤・施設整備	②生産資材調達	③生産	④加工	⑤出荷物流	⑥販売・マーケティング	⑦サービス
岩手県(事例)	養殖池整備	餌の製造	稚魚・成魚生産	スモークサーモン他	県内外への出荷	独自ブランド育成	サービス
強み	・水源豊富、多種多様な生産	・オリジナル餌	・「3倍体」による付加価値		・多種・多様な出荷形態	・ロコミ	・要望に応えやすい
弱み	・「分散零細圃(池)	・魚粉の価格高騰⇒コスト増	・労働力不足、小ロット		・物流コスト高	・差別化困難	・高価格
支援活動							
生産基盤・施設整備	・養殖技術、魚類防疫の指導、高付加価値バイテク卵の生産安定化(岩手県内水面技術センター)						
技術開発	・イワナ(エゾイワナ)、 「3倍体」サーモン等高付加価値魚種の開発(岩手県内水面技術センター)						
販売・マーケティング	・個別大規模経営体を核とした組織再編による産地化						

資料：調査結果より作成。

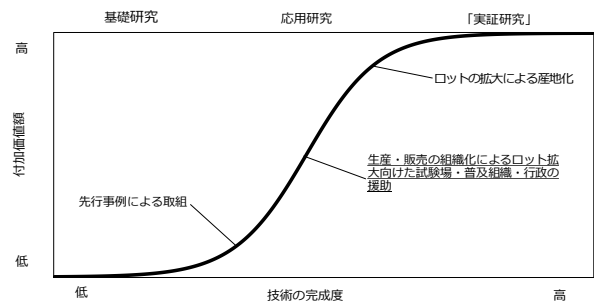


図2 技術の完成度と付加価値に関する概念図

資料：金子秀「研究開発戦略と組織能力」
「図6-3技術の完成度と付加価値」pp.123.を参考にして作成。
原図は加納2004、日本学術会議2003